

平成22年5月14日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19760436
 研究課題名（和文） 一般開放性を重視した劇場・ホールの利用者空間に関する研究

研究課題名（英文） A study on spatial utilization and assessment in theater and hall value public openness

研究代表者
 浦部 智義 (URABE TOMOYOSHI)
 日本大学・工学部・准教授
 研究者番号：10409039

研究成果の概要（和文）：国内の劇場・ホールを持つ公立文化施設の内、公演時外にホワイエをオープンスペースとして開放している施設を、一般開放性を重視した劇場・ホール施設と定義した上で、典型的な5施設の利用者を対象として公演時外及び公演時のホワイエを含む施設内オープンスペースの利用実態と空間評価を行った。その結果、劇場・ホールを持つ公立文化施設のホワイエを含む施設内オープンスペースの今後の計画に有効な基礎的資料を得た。

研究成果の概要（英文）：The subject of this research is the example of public culture facilities including theaters, halls and foyer that value public openness. This research shows following points that are not research objects so far, (1) the research and analysis of utilization study on visitors and stayers in facilities except for performance time, (2) spatial assessment in performance time from the viewpoint of audience, and analysis on the difference of these spatial assessments. As a conclusion, this research will show basic important references of open-space planning including foyer in that value public openness.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	0	1,200,000
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	600,000	3,800,000

研究分野：建築計画・施設計画

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：劇場・ホール，オープンスペース，ホワイエ，コモンスペース，アンケート，ヒアリング，公演時外，公演時

1. 研究開始当初の背景

(1) 公共施設の開放性・有効利用が問われて久しい。さらに、2003年には、公共施設に民間活力を利用する等の目的で、指定管理者制度が施行されるなど、多様化する市民のニーズに対する利用サービスの向上が、近年一

層求められている。劇場・ホールを持つ公立文化施設もその例外ではなく、近年の建築設計競技や建築設計プロポーザル、竣工後の劇場・ホールを見ても、ロビー・ホワイエの日常的な開放など、一般市民の施設利用を高める案が多く提案されているものも多い。

(2) しかしながら、今日まで開放性が重視されているロビー・ホワイエ等の利用者空間の利用実態について、特に公演時外について本格的に調査・分析されてこなかった。そのため、その利用者空間の設計・計画上の参考となる基礎的資料が少ないのが現状と考える。

(3) 当該研究の対象となる空間の利用者は大きく2タイプに分けられ、公演時以外の一般市民の施設利用者と、公演時の観客・聴衆である。即ち、従来「ケ・ハレ」という言葉で区別されて来た空間特性が同一の空間に求められ、開放性が重視されているロビー・ホワイエ等の利用者空間は、公演時の非日常性のみならず公演時外の日常性という側面からも分析が必要である。

2. 研究の目的

本研究では、上述した様な背景を鑑み、施設利用の向上に積極的に取り組み一般開放性を重視している劇場・ホールを持つ公立文化施設（以下、公立文化ホールと略）を研究対象として、(1) 公演時外の施設利用・滞在者を対象とした施設利用実態と施設評価を調査・分析する。次に、(2) 公演時の観客・聴衆から見た空間特性を把握することを目的とする。その結果、今後益々重要となる一般開放性を重視した劇場・ホールの利用者空間の設計・計画上の基礎的資料を得ることを目的としている。

3. 研究の方法

上述した様な特性を持つ5つの公立文化ホールを対象とし、まず(1)施設の概要を把握するため、各施設の設計者に施設の設計意図、各施設の施設管理者に施設の管理運営方針、設計者と施設管理者に施設の設置目的についてヒアリングを行った(表2)。

(2) 公演時外の施設内のオープンスペース^{注1)}(以下OSと略)の滞在者の分布を把握した。そのために、空間的・機能的にひとまとまりとみなせる利用者の滞在場所・空間(8~15箇所)について、施設の開館から閉館まで15分毎の巡回撮影によるスチル写真の記録、及び滞在者の人数・年齢層・性別・行為の内容を観察・記録した。その結果を、コモンスペース(以下CSと略)全体と照らし合わせながらホワイエについても分析を行った。

(3) (2)の施設内のOS滞在者を対象に、施設の利用意識並びに利用場所・空間に対する印象評価などについて、紙面によるアンケート調査(及び補足的にインタビュー)を行った。そのデータから、CS並びにホワイエを中心とした施設内のOSに関する滞在者の利用意識を分析した。

(4) (2)の施設内のOS滞在者の中から公演時に鑑賞者として来館してもらった被験者を選定し、同一の施設において、公演時にも鑑

表1 調査対象5施設の概要

施設名	可見市文化創造センター(KAN)		北上市文化交流センター(KIT)		
	2002年7月	2003年11月	2002年7月	2003年11月	
開館年	2002年7月		2003年11月		
劇場・ホール部 客席数(席)	主劇場	1019	大ホール	1406	
	小劇場	311	中ホール	461	
敷地面積(m ²)	33554.7		32191.6		
建築面積(m ²)	11250.0		8978.7		
延床面積(m ²)	20860.0		13708.7		
オープンスペース 面積(m ²)	2500.2		1577.6		
ホワイエ 面積(m ²)	開放	852.8	393.3	1296.1	
	閉鎖	459.5	470.0	828.3	
劇場・ホール部 オープンスペース 以外の主な施設	練習室		練習室		
	創作室		創作室		
	レストラン		レストラン		
調査日	平日	2008.11.13	2008.12.4		
	平日	2008.11.14	2008.12.8		
	土日	2008.11.30	2008.12.27		
鴻巣市文化センター クリアこうのす(KOU)	島根県 芸術文化センター グラントワ(SHI)		茅野市民館(OHI)		
2000年10月	2005年10月		2005年10月		
大ホール	1292	大ホール	1500	マルチ ホール	780
小ホール	306	小ホール	400	コンサート ホール	300
13370.3	36564.2		15533.4		
3245.3	12510.0		7018.8		
6105.4	12636.8		10593.5		
644.2	1415.2		1843.5		
456.9	327.2	928.2	539.2	949.6	
	129.6		389.0		146.4
練習室		美術館		美術館	
会議室		練習室		練習室	
レストラン		レストラン		レストラン	
2008.10.16	2008.11.20		2008.11.6		
2008.10.17	2008.11.21		2008.11.7		
2009.1.31	2008.11.22		2008.11.8 AM		
			2008.11.9 PM		

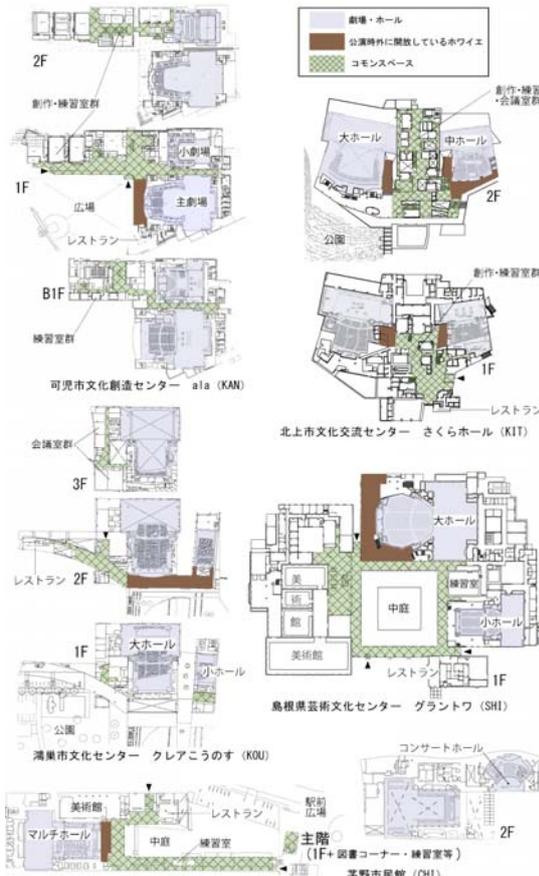


図1 調査対象5施設の平面図

OS 利用の利用実態には、立地条件と需要分析をふまえたプログラム（設計と条件にもなる）が重要な役割を持つと考えられる（表4）。（7）設計時には自由な利用を想定している施設内の OS の場所・空間を、管理運営者が利用を制限している場合がある。その主な要因は、施設管理者はじめ他の利用者からも目が行き届かないことである。

（8）普段の利用で、有料公演の鑑賞を中心とした劇場・ホールを来館目的とする割合が低くても 26.7%であることから、施設内の OS 滞在者は、劇場・ホールでの公演にも関心を持っていると云える（表4）。

（9）滞在者が場所・空間を選択する要因としては、気軽な寄り付き易さや開放的な印象、作業性に関しては、机の大きさや明るさが適度なことが多い。また、ホワイエを選択する要因としては落ち着きが多く、他の CS 滞在者が気にならないといった項目も挙げられ、利用者の少なさが逆に選択する要因になっているとも云える。

（10）各施設とも公演時外のホワイエの開放に関する認知度は低いが、これは普段利用する CS とホワイエの位置関係によるところも大きい。また、ホワイエに近接する他の CS 空間と比較して、利用するのに遠慮がちでホワイエの利用意識は概して低い。但し、CS とつながりを持つことで一定の利用が得られており滞在時間も比較的長い。

表4 滞在者の普段の施設来館目的と利用諸室・場所

	来館目的	劇場・ホール部	ホワイエ	オープンスペース	練習・創作・会議室群	美術館	レストラン	その他	合計
KAN	休演		24(0.0)	16(7.2)				24(0.0)	21.5(2.4)
	持ち合わせ		24(0.0)	4(2.4)			24(0.0)		48(2.4)
	鑑賞・自習			42(9.4)					42(9.4)
	読書			9.5(4.8)					9.5(4.8)
	有料公演の鑑賞	18.0(7.1)			24(0.0)				21.4(7.1)
	無料イベント	11.9(4.8)							11.9(4.8)
	講習会(セミナー)				4.8(2.4)				4.8(2.4)
	練習・稽古				19.0(11.9)				19.0(11.9)
	会議・打ち合わせ				4.8(2.4)				4.8(2.4)
	展示物の鑑賞			4.8(4.8)					4.8(4.8)
飲食			4.8(0.0)			4.8(2.4)		9.6(2.4)	
情報収集			16.7(9.5)					16.7(9.5)	
その他	4.8(0.0)			2.4(2.4)			2.4(2.4)	9.6(4.8)	
小計	35.7(11.9)	4.8(0.0)	100.0(64.4)	33.3(19.1)		7.2(2.4)	4.8(2.4)	185.7(100.0)	
KIT	休演			22(9.1)					22(9.1)
	持ち合わせ			4.5(0.0)					4.5(0.0)
	鑑賞・自習		4.5(2.3)	29.5(27.3)	6.8(0.0)				40.8(29.8)
	読書			4.5(2.3)					4.5(2.3)
	有料公演の鑑賞	29.5(9.1)			4.5(0.0)				34.0(9.1)
	無料イベント	9.1(2.3)							9.1(2.3)
	講習会(セミナー)	2.3(0.0)			11.4(4.5)				13.7(4.5)
	練習・稽古	9.1(9.1)		2.3(0.0)	45.5(25.0)				56.9(34.1)
	会議・打ち合わせ			2.3(0.0)	9.1(2.3)				11.4(2.3)
	展示物の鑑賞			2.3(0.0)					2.3(0.0)
飲食			2.3(0.0)			6.8(0.0)		9.1(0.0)	
情報収集			2.3(2.3)					2.3(2.3)	
その他			6.8(0.0)	8.1(4.5)			2.3(0.0)	17.2(4.5)	
小計	50.0(20.5)	4.5(2.3)	79.5(41.0)	86.4(38.3)		6.8(0.0)	2.3(0.0)	227.3(100.0)	
KOU	休演			9.5(9.5)					28.5(9.5)
	持ち合わせ		4.8(0.0)	4.8(0.0)					9.6(0.0)
	鑑賞・自習								
	有料公演の鑑賞	57.1(42.9)							57.1(42.9)
	無料イベント	28.6(9.5)							28.6(9.5)
	講習会(セミナー)					4.8(0.0)			4.8(0.0)
	練習・稽古					4.8(4.8)			4.8(4.8)
	会議・打ち合わせ					9.5(4.8)			9.5(4.8)
	展示物の鑑賞						9.5(4.8)		9.5(4.8)
	飲食							14.3(4.8)	14.3(4.8)
情報収集		4.8(0.0)						4.8(0.0)	
その他			19.0(14.3)				19.0(4.8)	38.0(19.0)	
小計	85.7(52.4)	9.6(0.0)	97.1(33.4)	96(4.8)		9.5(4.8)	38.0(4.8)	209.5(100.0)	
SHI	休演		4.3(0.0)	26.1(13.0)				21.7(8.7)	52.2(21.7)
	持ち合わせ			4.3(4.3)					4.3(4.3)
	鑑賞・自習			4.3(4.3)					4.3(4.3)
	読書			4.3(4.3)					4.3(4.3)
	有料公演の鑑賞	52.2(30.4)							52.2(30.4)
	無料イベント	8.7(0.0)							8.7(0.0)
	講習会(セミナー)	4.3(0.0)							4.3(0.0)
	練習・稽古	8.7(0.0)				4.3(0.0)			13.0(0.0)
	会議・打ち合わせ								
	展示物の鑑賞					21.7(8.7)	48.5(21.7)		65.2(30.4)
飲食							8.7(0.0)	8.7(0.0)	
情報収集			8.7(4.3)					8.7(4.3)	
その他			4.3(0.0)				4.3(0.0)	8.7(0.0)	
小計	73.9(30.4)	4.3(0.0)	52.2(30.2)	26.1(13.0)	43.5(21.7)	8.7(0.0)	26.1(8.7)	234.8(100.0)	
CHI	休演			20.0(10.0)					23.3(13.3)
	持ち合わせ			16.7(10.0)				3.3(3.3)	16.7(10.0)
	鑑賞・自習			23.3(20.0)					23.3(20.0)
	読書			38.7(33.3)					38.7(33.3)
	有料公演の鑑賞	20.0(6.7)							20.0(6.7)
	無料イベント	6.7(3.3)		3.3(0.0)					10.0(3.3)
	講習会(セミナー)								
	練習・稽古								
	会議・打ち合わせ					13.3(6.7)			13.3(6.7)
	展示物の鑑賞							20.0(0.0)	20.0(0.0)
飲食								3.3(3.3)	
情報収集			3.3(3.3)					3.3(3.3)	
その他						3.3(0.0)	3.3(3.3)	6.7(3.3)	
小計	26.7(10.0)	3.3(0.0)	100.0(76.7)			3.3(0.0)	20.0(0.0)	173.3(100.0)	

表3 年齢層別の滞在者数とアンケート回答数及び割合

施設名	KAN		KIT		
	男	女	男	女	
性別	38	42	26	21	
老年層	4(10.5%)	5(11.9%)	3(11.5%)	3(14.3%)	
若・中年層	7(10.0%)	12(10.0%)	7(9.9%)	10(11.4%)	
18～60歳	7(10.0%)	12(10.0%)	8(10.1%)	12(11.4%)	
中学・高校生	77	59	108	61	
13～18歳	8(10.4%)	6(10.2%)	11(10.1%)	7(11.4%)	
男女小計	185	221	213	187	
滞在者数	19(10.3%)	23(10.4%)	22(10.3%)	22(11.8%)	
アンケート回答人数	42(10.3%)		44(11.0%)		
KOU	SHI		CHI		
	男	女	男	女	
3	5	11	21	30	24
1(33.3%)	2(40.0%)	4(36.3%)	6(28.5%)	4(13.3%)	3(11.9%)
39	17	15	19	47	42
10(25.6%)	5(29.4%)	5(33.3%)	6(31.6%)	6(12.8%)	5(12.8%)
3	5	0	8	57	47
1(33.3%)	2(40.0%)	0(0.0%)	2(25.0%)	6(10.5%)	6(12.8%)
45	27	26	48	134	113
12(26.7%)	9(33.3%)	9(34.6%)	14(29.2%)	16(11.9%)	14(12.4%)
72		74		247	
21(29.2%)		23(31.1%)		30(12.1%)	

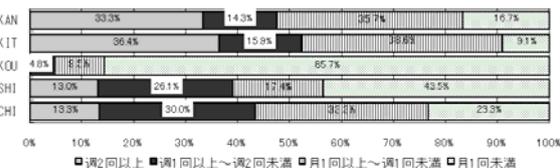


図3 滞在者の施設来館利用頻度

（11）SHI 以外は20%以上が有料公演時にはCS を利用していないことや、KAN・KOU では60%以上が公演時外の日常利用とは違う意識で利用するなどから、公演時外のCS の主な利用空間とホワイエの位置関係や面積が、公演時のCS 利用意識・空間に影響している（図4、図5）。

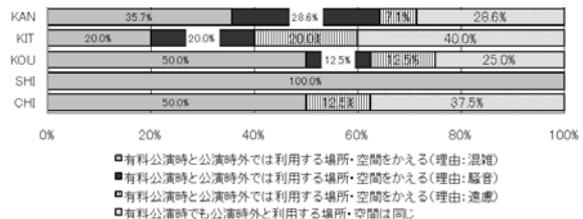


図4 公開時外と有料公演時のコンスペースの利用意識について

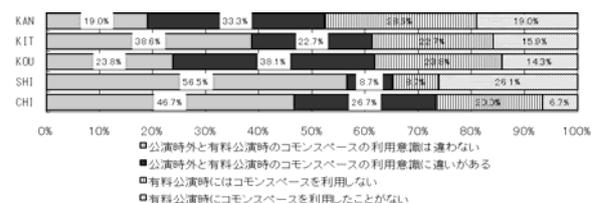


図5 有料公演時のコンスペースの利用場所・空間の選択

(12) 公演前後のホワイエ付近のCSでは、観客・聴衆と公演に関係ない施設利用者が混在する場所・空間があり、鑑賞者に日常的で見慣れた印象を与えることも多い。また、公演時は公演時外では、同じ場所空間で同一被験者であっても受ける印象やその要因に違いがある(図6)。

表5 公演時の調査概要

施設名	可見市 文化創造センター (KAN)	北上市 文化交流センター (KIT)	茅野市民館 (CHI)
調査対象 公開内容	新フィルハーモニー 交響楽団 ニューイヤーコンサート 2009	ニューイヤーコンサート 2009 ウィーン・フォルクス オーバー交響楽団	松島みどり ソプラノリサイタル 雪降る夜の素敵な 出来事
調査日	2009.1.18	2009.1.4	2009.12.13
被験者数	14人	14人	13人

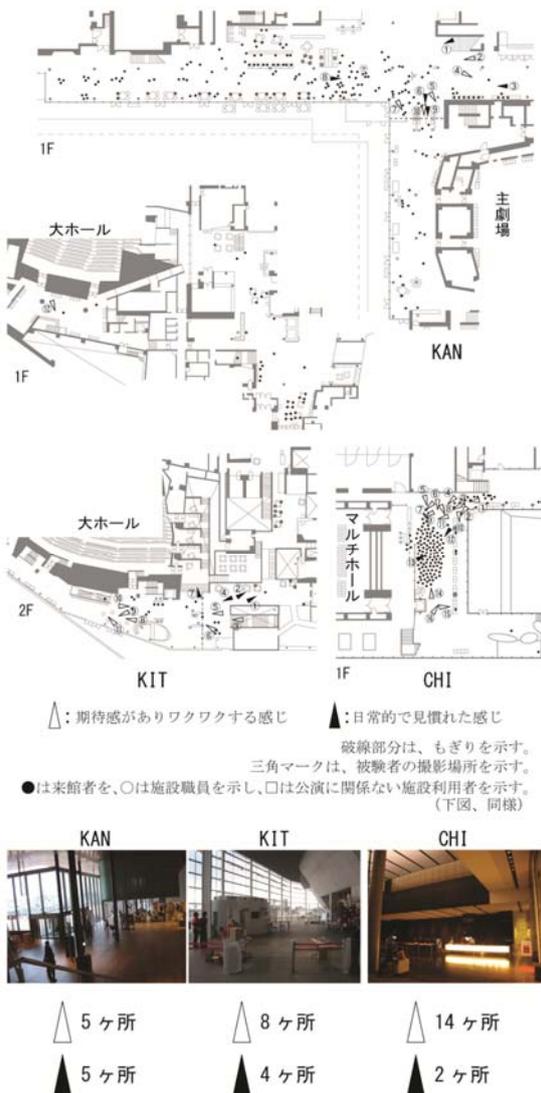


図6 公演前のホワイエ付近のCSの滞在の状況及び被験者が撮影した日常的・非日常的な箇所

<注釈>

1) 本研究では、オープンスペースを「コモンスペース」+「公演時外に開放するホワイエ」+「半屋外のデッキやテラス」+「中庭・広場・公園」と定義。また、施設内のオープンスペースは、上記から「中庭・広場・公園」を除いた空間・場所とした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

①浦部智義、公演時外の滞在者の分布と意識から見た劇場・ホールを持つ公立文化施設内のオープンスペースに関する研究—ホワイエを開放している施設における調査研究—日本建築学会計画系論文集 75巻 第647号、査読有、pp57-66、2010年1月

〔学会発表〕(計3件)

①浦部智義、篠木正義、劇場・ホールの施設利用に関する研究—一般開放性を重視した劇場・ホールの利用者空間に関する研究(その1)—日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1分冊、pp179-180、2008年9月

②浦部智義、篠木正義、施設利用者の劇場・ホールに対する印象評価に関する研究—一般開放性を重視した劇場・ホールの利用者空間に関する研究(その2)—日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1分冊、pp181-182、2008年9月

③浦部智義、三浦金作、渡邊洋一、劇場・ホール公演時の施設内のオープンスペースに関する研究—公演時外にホワイエを開放している公立文化施設を例として—、日本大学工学部学術研究報告会講演要旨集、pp18-19、2009年12月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浦部 智義 (URABE TOMOYOSHI)
日本大学・工学部・准教授
研究者番号：10409039